

産技セnews 3月号をお届けいたします。今号では岐阜県産業技術センター各部の話題やトピックスといたしまして次の内容をお伝えいたします。

岐阜県産業技術センター 研究成果発表会のご案内

県産業技術センターでは、科学技術週間にあわせて、平成27年度に実施した研究成果の発表会を以下のとおり開催します。併せて、発表会終了後に所内見学会も実施します。

県の研究機関の業務について多くの方々に知っていただく良い機会です。ご来場をお待ちしております。

環境・化学部	部署	繊維部
平成28年4月22日(金) 13:30-16:30	日時	平成28年4月19日(火) 13:00-16:30
岐阜県産業技術センター 3F講堂 岐阜県羽島郡笠松町北及47	場所	岐阜県産業技術センター 3F講堂 岐阜県羽島郡笠松町北及47
平成27年度 研究成果発表 <ul style="list-style-type: none"> 熱可塑性CFRPの立体成形技術の確立 セルロースナノファイバーを活用した複合材料の特性向上と地場産品への用途展開 高機能コーティングフィルムの開発研究 有機・無機ハイブリッド材料との複合化によるデバイス用機能性フィルムの開発 廃プラスチック原料の臭気物質除去に関する研究 木質バイオマス蒸留液を用いた防菌・防藻製品の開発 ポリエチレンの分解制御技術の開発 	内容	講演 「アゾ染料の規制と日本の繊維産業の対応」 (株)ワコール 品質保証部 : 繊維産業連盟「環境・安全委員会」主査 長 保幸氏 平成27年度 研究成果発表 <ul style="list-style-type: none"> 軽量・高保温性繊維素材の開発 炭素繊維複合材料(CFRP)用繊維状中間材料の開発 未利用資源を活用した快適機能性繊維の開発 環境対応型ハロゲンフリー難燃繊維の開発
所内見学(希望者)		所内見学(希望者)
食品部	部署	紙業部
平成28年4月20日(水) 13:30-17:00	日時	平成28年4月21日(木) 13:30-16:30
岐阜県産業技術センター 3F講堂 岐阜県羽島郡笠松町北及47	場所	岐阜県産業技術センター紙業部 2F研修室 岐阜県美濃市前野777
講演 「卵白リゾチームと卵黄レシチンの基礎知識と応用」 : キューピー(株) 研究開発本部 技術研究所 機能素材研究部 タマゴ基本素材チーム 笹原 亮氏 平成27年度 研究成果発表 <ul style="list-style-type: none"> 熟成技術によるクリ新品種の商品展開 「伊吹山麓よもぎ」を使った機能性製品の開発 岐阜県の水、米、酵母で造るぎふトップブランド清酒の開発 交雑法を利用したカプロン酸エチル高生産性G酵母の開発 新規スプラウト商品の開発 	内容	講演 「セルロースナノファイバーの概要と応用事例」 : 第一工業製薬(株) 事業本部機能化学品事業部 機能化学品研究所 合成研究第一グループ 課長 神野 和人氏 平成27年度 研究成果発表 <ul style="list-style-type: none"> 熱可塑性CFRPの立体成形技術の確立 カキにおける輸出用長期貯蔵技術および品質保持技術の確立 電池電極材料に紙の用途開発 海藻を原料としたナノファイバー製造技術の確立 美濃和紙原料の高品質化のための栽培・管理技術の開発
所内見学(希望者)		所内見学(希望者)

申込方法：ウェブサイトから希望する発表会の申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、ファックスにてお申し込みください。 <http://www.iri.rd.pref.gifu.jp/>

新技術講演会を開催しました（3月10日）

『ポリマーアロイ・ブレンドによる高性能・高機能化技術』
 講師：東京工業大学 大学院理工学研究科
 物質科学専攻 教授 扇澤敏明 氏

業種を問わず、県内・県外の企業16社21名の方が参加されました。ポリマーアロイブレンド技術とはポリマーを混合し、お互いのポリマーのメリットを最大限活かそうという技術です。ポリマーの物性などの基礎から、実用化されている技術などの応用例、今後の可能性・将来性についてご講演いただきました。

講演後は活発な質問が飛び交い、よい議論の場となりました。



新技術講演会の様子

お問い合わせ先 環境・化学部 栗田

（独）酒類総合研究所と連携協定を締結しました

産業技術センターと独立行政法人酒類総合研究所は「醸造技術分野の連携に関する協定」を結ぶため、2月19日、産業技術センターにて締結式を行いました。

岐阜県では成長産業の1つとして、食品分野に注目しています。その1つの清酒製造業は、国内消費は横ばいながら、海外輸出に明るさを見出しています。しかし、国内外で酒類の競争は厳しく、消費者の好みも多様化しています。そこで、酒類醸造技術分野に関する産業支援及び学術研究に係る活動において連携と交流を図り、両者で地域社会の発展を目指すことを目的に連携することとなりました。

（独）酒類総合研究所は、酒造りに関する唯一の国の研究機関として明治期に設立され、今日まで多くの知見を蓄積されています。当センターでは先端的かつ高度な技術を学び、研究員のスキルアップを図って、技術支援の質を向上させます。一方（独）酒類総合研究所では当センターの製造現場を見据えた取り組みから現場ニーズを素早く掴むことができます。具体的には現在当センターで取り組んでいる、県オリジナル新酵母の開発を加速させることから始めます。



産業技術センターで開催した締結式の様子

岐阜県酒造組合連合会 中島善二会長（左写真 右）と県商工労働部 郷 敦部長（左写真 左）の立会いの下、（独）酒類総合研究所 家村芳次理事長（左写真 中央右）、産業技術センター 河田賢次所長（左写真 中央左）が協定書に署名し、参加者に連携の意義などを説明しました（右写真）。

お問い合わせ先 食品部 吉村、大津

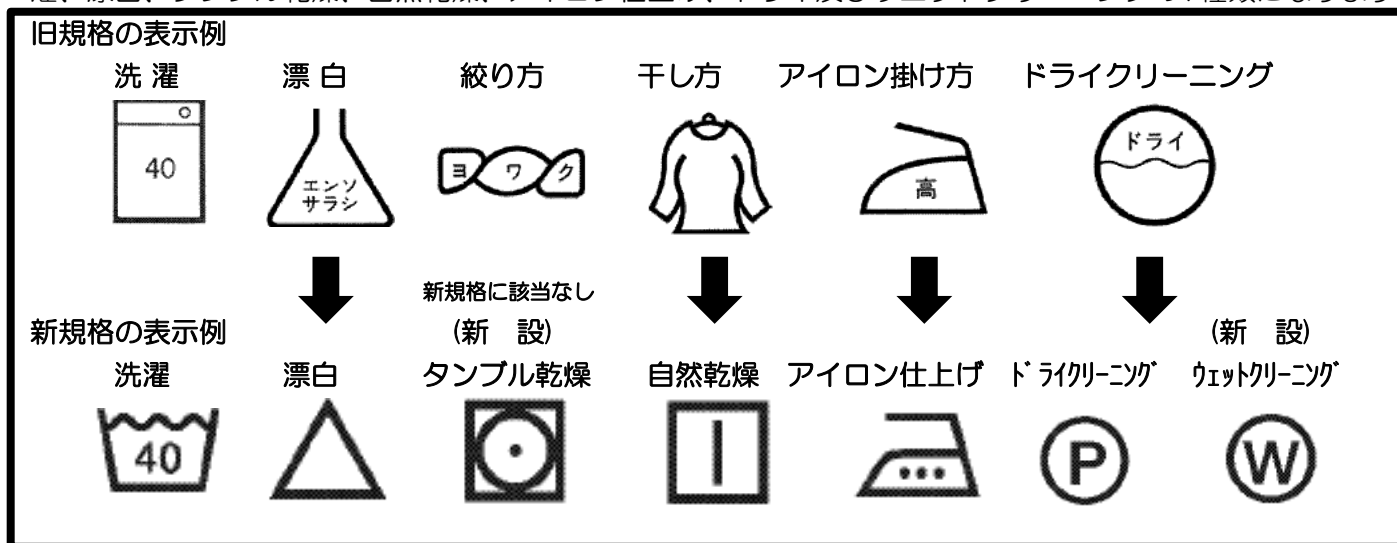
繊維部

新ケアラベルの紹介

JIS L0001「繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示方法」が2015年3月31日に制定され、2016年12月1日の施行により、ケアラベルの表示方法が変更されますので、ご紹介します。

◆概要◆ これまでのJIS L0217による現行の取扱い情報から、ISOと整合化したJIS L0001の取扱い情報に、表示方法が改められます。

◆主な変更点◆ 現行の洗濯、漂白、絞り方、干し方、アイロン掛け方、ドライクリーニングの6種類から、洗濯、漂白、タンブル乾燥、自然乾燥、アイロン仕上げ、ドライ及びウエットクリーニングの7種類になります。



出典：一般財団法人 日本衣料管理協会 2014.10.1 No.166会報より

お問い合わせ先

繊維部 立川

紙業部

試験機器更新のお知らせ 『ガーレーこわさ試験機』

JAPAN TAPPI No. 40: 2000 「紙及び板紙一荷重曲げ法によるこわさ試験方法—ガーレー法」に規定されるガーレーこわさ試験機を更新しました。

【試験機の仕様】

- ・東洋精機製作所製 No. 826 デジタルガーレ・柔軟度試験機
- ・測定範囲：0.01 ～ 5000mN
- ・試験片幅：12.7mm、25.4mm、50.8mm
- ・試験片長：25.4mm、38.1mm、63.5mm、88.9mm、114.3mm
- ・おもり：5g、25g、50g、200g
- ・回転速度：2rpm

紙の「こわさ」とは、紙を折る、曲げる際に反発する度合いをいいます。

ガーレーこわさ試験機では、規定の大きさに採取した紙（長方形）の短辺の一端を固定し、鉛直に保持した自由端に力を与え、一定速度で紙を曲げていくときに要する荷重（mN）、これを「こわさ」として測定します。

ガーレーこわさ試験には、コピー用紙や上質紙などの他に、板紙が適用されます。ティッシュペーパー、トイレットペーパー、紙タオルなどの非常に柔軟な衛生用紙には適していません。

紙のガーレーこわさ試験は依頼試験にて承ります。試験機は開放機器としてもご利用になれます。お問い合わせください。



ガーレーこわさ試験機

お問い合わせ先

紙業部 浅野、関

お問い合わせ先

環境・化学部、繊維部、食品部

〒501-6064 岐阜県羽島郡笠松町北及47
TEL 058-388-3151 FAX 058-388-3155

紙業部

〒501-3716 岐阜県美濃市前野777
TEL 0575-33-1241 FAX 0575-33-1242